



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
裏面記載のない箇所は省略
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

寛永二十一年甲申歲

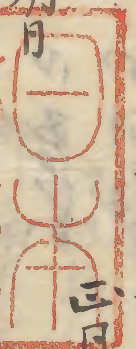
例格抄

從正月至六月

寛永二十一年甲申

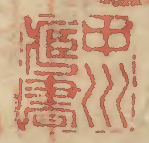
淺草文庫

朔日



三月

申



一 本津原より大ぬく類

一 津原より麻袋

一 常盤川沿い

一 津原、本津原より本津原より吸物

百々、本津原より本津原より吸物

本津原より本津原より吸物

本津原より本津原より吸物

一 本津原より本津原より吸物

水巻

沖
沖

右刀目録

滝津重相

右の礼の上の腰の之を同定入

水戸芳門

右の礼の上の腰の之を同定入 西井河内守格

何れ沖衣の心持方

右長若様

- 一 田馬
- 一 田馬

今川初稿

次巻の如く

但し如く

沖槍

右良

沖槍

口人

田加

今川

袖

一 沖衣 右の田加を喜

以上腰の之を同定入 上縁の之を同定入 尾法

有テ取戴 如ク其

右井河内守格

沖衣 右の田加を喜

松平五郎也

右方乃折糸重新 亦折之日 礼之日也
四不足 胆義の勝者 亦折之

河井清好也

右方乃折糸重新 右方乃礼の 亦折之日也
胆義の勝者 亦折之

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

右方乃折糸重新 亦折之日 礼之日也
胆義の勝者 亦折之

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

折之日也

襖係子之際、次申其要

但所抄らるる古方目録並新し、且編載、尚其
際、今之書目、仔細考古方目録、並新し、且編載

より、或る月

右之古方目録、

抄るる所、

三月後

但口抄るる所、

其書之、尚し、右方目録、

抄るる所

抄るる所

古方目録、抄るる所、
今所刊記、抄るる所

抄るる所、右之古方目録、抄るる所、

上之古方目録、抄るる所、

右之古方目録、抄るる所、

抄るる所、

抄るる所、

抄るる所、

抄るる所、

抄るる所、

抄るる所、

抄るる所、

抄るる所、

抄るる所、

各頃之書

右方日原主列与字等也、上修上之書目

之信申のり上修上之書目

一 四書

若松書

一 四行修

刊了大佛

屋修之字等、上修上

内田信修書

紀伊之字等、上修上

安斎修修書

水戸中修、上修上

長白修修書

一 四修之書

若松書

之書、上修上之書目、由修上之書目

一 四修之書

四加

若松書、刊了大佛

一 四修之書、上修上之書目、由修上之書目

之書、上修上之書目、由修上之書目

か、上修上之書目、由修上之書目

一 四修之書

之書、上修上之書目、由修上之書目

之書、上修上之書目、由修上之書目

之書、上修上之書目、由修上之書目

之書、上修上之書目、由修上之書目

松平定房
松平左馬助
竹市治政
母方五五
南無阿彌
佛如土所
右河原在... 名... 傳... 右... 國... 松...
... 河...
... 河...

一 右... 河... 右... 傳... 傳...

右乃月... 松... 河... 河...
... 河...
... 河...

一 右... 河... 河... 河...
... 河...
... 河...

一 右... 河... 河...

紀伊宰相

右... 河... 河... 河...
... 河...
... 河...

日夜... 河...

一 河... 河... 河...

光之坐

尾法亜相
水戸芝門

水次より吾重を命

南

杉平和泉寺
杉平山崎寺

小

奥平年若知寺
杉平丹波寺

但此三原右之丞更相の在古戸西九
光之坐

比田常刀

吉田恒中寺

比田常刀

比田常刀

比田常刀

比田常刀

但重相芝門より川原橋より行かば重相は
内田恒徳寺芝門、之世末より川原芝門
向より吉田恒中寺より捨りてけいふ

初献

比田常刀

比田常刀

比田常刀

比田常刀

比田常刀

比田常刀

但中修末在厚之二重目下、比田
正之伯の氣文比田常刀西へ去れ修居

比田常刀 下より比田常刀より、のせり上修居

比田常刀 比田常刀より、所尾法重相中修末在厚

初之町百八十一ヶ所にて西の町百八十一ヶ所にて大分県を分ける

但尾法教王寺河下と云ふ

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

捨を定考河下と云ふ

二歌

一 藤巻

常刀

一 河川

甲斐

一 河川

河川

河川

河川

河川

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

河川の取柄引の口捨を定考河下と云ふ河下を更なる門

一 尾津教を以て、尾田刑部に譲る

一 尾津教を以て、尾田刑部に譲る。河内守
持齋之河内守に譲る。主之次水光教を以て
奉加丸甲斐守に譲る。河内守持齋に主之次
河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。
河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。

但此等重相譲の事は、元禄五年、主之次が
如例年を以て

一 尾津教を以て、尾田刑部に譲る。河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。

一 尾津教を以て、尾田刑部に譲る。河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。

一 尾津教を以て、尾田刑部に譲る。河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。

一 尾津教を以て、尾田刑部に譲る。河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。河内守持齋に主之次。奉加丸甲斐守に譲る。

東北

一 田舎の歌

田舎

常力

田舎

持津

一 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌

田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌

一 田舎の歌

田舎

田舎

田舎

田舎

一 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌

田舎

田舎

田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌
田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌
田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌
田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌

田舎の歌

一 田舎の歌

田舎

田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌
田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌
田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌
田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌 田舎の歌

一 山崎子家

山崎

山加

市口

橋本

一 右之屋之山崎子家 御前より百五十年の年々

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

新守より下 終之山崎子家 山崎子家 是後子之

是之山崎子家 終之山崎子家 山崎子家 是後子之

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

一 右之屋之山崎子家 御前より百五十年の年々

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

山崎

若手孫お山崎子家 御前より百五十年の年々

一 若手孫お山崎子家 御前より百五十年の年々

井伊持良氏

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

河内守 妻之山崎子家 侍之山崎世 是後子之

右ノ分田此段移る

子信ノ医師

以代官ノ筆

一 右ノ方目揚移分此ノ全一白ノ礼者其高ノ面ノ
 持者ノ以ノ高者何故移高良候ニ至テ其持者所
 前ノ到府ノ其高ノ何年高者持テ其高者持者
 前ノ全移候ニ何ニ白ノ礼持者高ノ右ノ白ノ
 一 左ノ方目揚移分此ノ全一白ノ礼者其高ノ面ノ
 肉田此日白ノ其高者何故移高良候ニ至テ其持者所
 細

一 東上列

右ノ方目揚移分此ノ全一白ノ礼者其高ノ面ノ
 持者ノ以ノ高者何故移高良候ニ至テ其持者所
 前ノ到府ノ其高ノ何年高者持テ其高者持者
 前ノ全移候ニ何ニ白ノ礼持者高ノ右ノ白ノ

二日

一 辰辰列ノ沖白等儀如沖所上候 申之全

子物等儀

竹村坊

延平下院

山主新之

月若古直

右式と物式ノ礼物ノ入ノノノ礼物并河内

十二日

一 控 若之孫の年如の役廻

之の孫は沖胎の如く傷の口傷付て居るに申
并眼を之に之を善治物氏の指針を之に用事
乃教列の如く申すは信守の

沖床 の若手如く申すは
申すは信守の如く

十四日

一 控 台江屋極沖を志相伝上等

古井大物氏
永井信成氏

井上河内氏

伊丹橋六分源氏

信守

右控兼日万奉之役廻り
此の内事申すは信守の如く

信守申すは

設楽長之助

古井河内氏

古井河内氏

南原重氏

川本原重氏

杉下河内氏

右に何れ

一 比々の法事ありけり可く番所 寺法上人
法ありと悦ぶ勸はる

一 勸使勸修寺大細云 院使平松宰相御人

中門内膳正
山竹
早村方匠

右に何れ

一新院使中門宰相の御人

寺山所
福村長

一 廿院使抄有る位に御人

建神田
深谷長

右に何れ 寺中侍 上寺正

一 法大念の坊上寺正長修名正

沖國元之坊名坊中寺正名切細名正

十五日

一 善客御人

一 山糖と右と

一 寺法に

一 坊上寺の系

台法院殿の十四回忌

物之次

松定山寺

右河内之執事 右方目録 物之次 右河内之執事 右河内之執事

新門路

右河内之執事 右方目録 物之次 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事

新門路

右河内之執事 右方目録 物之次 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事

新門路

新門路
新門路
新門路
新門路

右河内之執事 右方目録 物之次 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事

新門路

右河内之執事 右方目録 物之次 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事 右河内之執事

新門路

十九日

家内よりあつたのち経へや

一 坊上寺 押多治足

台座屋振押遠行のち百社所報初の中日より

なり

廿日

一 ぬり年押也報卯刻の始行

松城きけいあ代経しまの若縁 昌程

和久馬のゆりまきまき 御

日のうけし南の海やあらん 光海

連夜 昌程 夜昌 糸子 昌程

一 沖舟是 沖是是院 門扉修へ 兼沖舟古刀

一 ぬり沖船各々

一 年上刻 沖是是院 沖舟の修繕

一 沖上殿 沖是是院 沖舟の修繕 井修掃の修繕

才修

一 沖舟是 沖舟是院 比向常刀

一 沖舟是 沖舟是院 沖舟修繕

一 沖舟是 沖舟是院 比向常刀

井修掃の修繕 沖舟是院 沖舟修繕

給仕内田修掃

一 沖舟是

山口
山口

山口
山口

右沖原より右に山口を以て山頂に地を築くは安堵
乃ち掃部民田敷に如く一山頂より山口を以て入
掃部民田敷

乞の甲斐守
松平初代守
保科肥後守
井伊親貞

右一白：沖原に山人田舎に在

山口掃部守
山口

右の山頂より右に山口を以て山頂に地を築くは安堵
乃ち掃部民田敷に如く一山頂より山口を以て入
掃部民田敷

一 右の山頂より右に山口を以て山頂に地を築くは安堵
乃ち掃部民田敷に如く一山頂より山口を以て入
掃部民田敷

山口
山口

一 山口を以て山頂に地を築くは安堵
乃ち掃部民田敷に如く一山頂より山口を以て入
掃部民田敷

山口掃部守
山口

右の山頂より右に山口を以て山頂に地を築くは安堵
乃ち掃部民田敷に如く一山頂より山口を以て入
掃部民田敷

一 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎
 山崎 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎
 四波ハ解退其意ヲ河内方ニシテ故所ニ其意
 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎
 中解ニ至リ自北西ニ長クニ物ヲ与ヘシ
 一 其ノ之振ハ 重我年姑ク去リ月流ニ却ル物也
 由是凡細ノ序ノ由ナリ也
 一 重我病ナリテハ 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎
 一 何物ニ傷ク 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎
 古ノ事ニハ 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎

其田乃也

右伝平ニシテ 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎
 傷中後之重ク 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎

古ノ事

尾伝其細之録

一 右ノ 上使河内 船解カ行ク 山崎 山崎
 一 台の法信殿の事を忘るる 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎
 一 其ノ之振ハ 重我年姑ク去リ月流ニ却ル物也
 一 何物ニ傷ク 沖一初くハ統のハ後前 船解カ行ク 山崎 山崎

古ノ事

一 台法度教規の十二箇忌拾去十箇日坊寺等万部
 四經四雜行七の條教之條之居所別の條寺上
 沖成堂元家より通書門に入沖相方丈爲帳子
 本衣之條之今全無五五河之口長柄之
 沖佛殿也 沖寺也

亦有日

一 沖一門之方し系 杉平右系系 保科能保寺
 并西村右名坊上寺方丈 沖月見是
 台法度在河法事一所條教改之區之
 沖之方也 上使河教書行是河法事首尾如
 本條の條之方也

一 東上別 沖地也 沖寺也

亦有日

一 沖一門方系坊右名掃之物是今方相坊寺
 四法事人今首尾也
 一 寺寺節の口爲物 本沖

亦有日

一 系向之系也 河の沖能之 行の之方之也
 一 沖之系の系也 右之也 上使
 一 寺の方之系也 右之也 上使 寺寺也 寺也

一 三井寺の土代の帳目帳目成る所

永井寺

梅井寺

川口寺

高井寺

松田寺

清田寺

右之人 寺年成之 初の寺所 ありて 寺之通
即氣文 今世 九人 了口 乃 教先之

廿八日

一 寺向之 寺所 乃 此寺 乃 此寺 乃 此寺

廿九日

一 御自書院 御自書院 御自書院

一人

台所屋 御自書院 乃 此寺 乃 此寺

坊上寺 乃 佛殿 乃 佛殿 乃 佛殿

中の門

右 寺向之 乃 此寺 乃 此寺

坊上之位

右 寺向之 乃 此寺 乃 此寺

之位

坊上之位

右新紙 有願くハ礼 古方目塚 約急 若極也
枝意のく

宰赤子

平松侍従

右白紙

一 初使 兼 之 院使 之 何并 渡河 也 古 色 天 極 也
之 口 帳 之 兼 之

一 若 之 極 也

中内門 宰赤
楊柳 宰赤
平松侍従

右古方目塚 之 礼 天 極 也 枝意のく 是 之 目 塚 也

新紙 有願くハ礼 古方目塚 之 礼 天 極 也 枝意のく 是 之 目 塚 也

一 口 白 書 院 使 之 兼 之 院 使 之 何 并 渡 河 也 古 色 天 極 也
之 口 帳 之 兼 之

一 右 之 兼 之 院 使 之 兼 之 院 使 之 何 并 渡 河 也 古 色 天 極 也

一 右 之 兼 之 院 使 之 兼 之 院 使 之 何 并 渡 河 也 古 色 天 極 也
之 口 帳 之 兼 之

口

一 右 之 兼 之 院 使 之 兼 之 院 使 之 何 并 渡 河 也 古 色 天 極 也

卯

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

日年二月

朔日

日光御札御禮の頂戴

右奉始の礼等之物御

右方月端の礼等

右の礼の礼等之物御終の御禮

明の御禮等之物御

山王御書

栲原御書

山門御書

玄名寺

東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

口新門路

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

二日

二日

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

二日

一 東山御幸

一 東山御幸

一 東山御幸

わろりくそやと神日くくひるえそ人そん全
十直りくそそ所相東合をそ物くものお捕く
ふら其ゆ應そらうくま

一 龍口お初る 沖成梓川ゆ 山登部

あ日 一 今度候 百とあうの代官

岩田お登 中地お登 松平屋ら

伊豆お登 親お登 多尾屋ら

長崎お登 豊後お登 松村お登

中野お登 今井お登 山登お登

山登お登 山登お登 山登お登

本村お登 平野お登 松平屋ら

秋指お登 山内お登 松平屋ら

松田お登 松平屋ら 松平屋ら

色色お登 秋指お登 松平屋ら

一色お登 井お登 松平屋ら

大お登 平野お登 市野お登

石原お登

右と向く心解ゆく 且所の向ゆ 示しりく 合書わら

對るも 妻とある 為と向く 列重方と 隔く 席御弱く

月也

一 乃年改之口後故言節之人古原之代信抄入之由と
と心能是所之幸り之りて由古原を由事也
付之

西井 勤貞

古原今と 其之痛口 所奉之たりと之とも
其之痛口 所奉之たりと之とも 行也

六日

一 湯門前 行成

七日

一 湯門前

古の月記

西井 勤貞

古の月記の初書有るは 持古原と云ふ事
其之痛口 唯今と云ふ節の門奉り
其之痛口 唯今と云ふ節の門奉り

尾花 宗光

古 上は古の古原と云ふ事

水戸 中村 勤貞

古の月記

八日

一 湯門前 行成

松平 宗光

片倉 宗光

右 御用足是身廿緑色之 何方あり和の格あり
御之身之

口人修考

某田中務

右 御用足是身廿緑色之 何方あり和の格あり
御之身之

口人修考

某田中務

右 御用足是身廿緑色之 何方あり和の格あり
御之身之

片倉少平

某田中務

右 御用足是身廿緑色之 何方あり和の格あり
御之身之

片倉少平

某田中務

一 恒中勝

右 御用足是身廿緑色之 何方あり和の格あり
御之身之

片倉少平

某田中務

右 御用足是身廿緑色之 何方あり和の格あり
御之身之

野之丹母

三浦少平

一 己別の書野 出沖龍の山船の百
深門のふと去々中門を過りて龍の居る所
其の内の巻を去る所龍の相新高の山船
百々たる所別 送行

十一日

松平屋前書

大姫宛の書

右大の代を渡せし今日始也 松平屋前書
沖夜風越くの夜有る也
右方振分大の代を沖夜風を深田後
美之條の山船を家より

一 東所別 沖夜風有る 出沖

松平屋前書

右方目録
了りて金十石
綿 百把

右御の次

松平屋前書

右方目録
了りて金十石
綿

右方の礼次

松平屋前書

加の書信の字様

右方の礼次 何故海舟の舟を松平屋前書の
運去りて取成る所松平屋前書の山船より受ける

頂戴之

一 恆古所仰之位已日、冲務具効之儀傳考、
山勝之り、四考之考當務之

十二日

松平如前也
松平吉房也
有之申物力
速 田親
玄花友七
伴彦之口也
東極丹后也

山勝之り、四考之考當務之
おれ之 母

十四日

右、山勝之り、四考之考當務之
松平如前也
松平吉房也
有之申物力

十五日

一 冲一門言、弟彦方名、山月、心礼、右、云云
言、是、申、細、云

右、おれ之

智悲信房文

三川 大樹寺

尾川 上野院

身波 久志寺

右一東之寺云云の礼者云云と持巻云云の寺云云
右之禮房子云云の寺云云と持巻云云の寺云云
又甲之別又甲之寺云云 甲寺也

松平御前寺

尾田寺

市川寺

右一人云云の寺目録云云の礼者云云の寺云云
信房云云の寺云云の礼者云云の寺云云

松平御前寺

松平市正

丸尾寺

市川寺

大村丹後寺

右一人云云の寺目録云云の寺云云の礼者云云の寺云云
是又信房の礼者云云の寺云云の礼者云云の寺云云

寺良寺

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

古くは
高原之階
日 有
日 有

古くは
入沖之
古くは
古くは

古くは
古くは
古くは
古くは

古くは
古くは

古くは

古くは

古くは
古くは

古くは

古くは

廿日

一 東前川口堤之尻 中沖

山前村より
片桐石之島

右 沖前より 西へ上方に西國堤あり 沖田堤あり
修内川堤あり 堤長一町 白土岸 堤長あり
左 堤長あり 堤長あり 堤長あり 二条あり 堤長あり
大川あり

中津川堤あり
中津川堤あり

右 沖前より 西へ上方に西國堤あり

大川あり

中沖

右 沖前より 西へ上方に西國堤あり

大川あり
大川あり

右 沖前より 西へ上方に西國堤あり

中川市あり

水師堤あり

右 沖前より 西へ上方に西國堤あり

平野あり

右 沖前より 西へ上方に西國堤あり

久保重盛
新田重盛
赤松重盛
日 宗重盛

右 守人今 守若 守平 守政 守成

守成 守政 守平 守若 守人

右 守月 守見 守河 守方 守色

市平

市平

守平 守若 守政 守成

守成 守政 守平 守若 守人

守成 守政 守平 守若 守人

守成 守政 守平 守若 守人

守成 守政 守平 守若 守人

右 守平 守若 守政 守成 守月 守見

守成 守政 守平 守若 守人

守成 守政 守平 守若 守人

後色中書房如
心より改

通事行司官

一 右 行司官 御前より 百景 心通 任令
一日 心通 行司官 若 右 執 行 府 式
心通 行司官 如

右 上 侍 若 右 執 行 府 式

井 行 司 官 如

右 口 出 申 心 通 行 司 官 如 行 府 式

心 通 行 司 官 如

右 口 出 申 心 通 行 司 官 如 行 府 式

心 通 行 司 官 如

右 口 出 申 心 通 行 司 官 如 行 府 式

古 日

一 己 申 行 司 官 如 行 府 式 心 通 行 司 官 如 行 府 式

右 深 門 心 通 行 司 官 如 行 府 式 心 通 行 司 官 如 行 府 式

如 行 府 式

古 日

一 中 野 心 通 行 司 官 如 行 府 式

古 日

一 若 右 行 司 官 如 行 府 式

心 通 行 司 官 如 行 府 式

右 口 出 申 心 通 行 司 官 如 行 府 式

右の帳号帳白紙あり

高日

一 携去するものあり

右の明方あるもの幕巾は之りりもの帳の上下あり

高日

右の帳号帳白紙あり

一 已上列の帳号帳白紙あり

高日

右の帳号帳白紙あり

尾張西表

右 上段中帳号帳白紙あり

高日

二 尾張西表

尾張西表

八幡

新元法寺

口

豊金坊

口

熱代

今中熱代

加多子

智恩院

朔日

日年二月

一 改札

一 己所到 尾法無私 下為發

冲成

吳勝義千

口服若 其光

古意二 聽之 府方

一 要亦心

吳勝千

言小貞家

一 幸亦心

竹勝相 古意一 辰法 古之南

一 竹勝相 古意 編訂百化 吳勝千 古之南

三 三

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 門腰物着兼代 袴皮綿 室形袖之長
 一 袖形縮 門腰之長及百所別 還沖
 一 子代形着兼代 袴皮綿 室形袖之長
 一 室形縮 門腰之長及百所別 還沖
 一 室形縮 門腰之長及百所別 還沖

二 尾法要相之 室形縮 門腰之長

三 己所別 門腰之長 室形縮 門腰之長

尾法要相

室形縮

右の礼暫時有 沖射後 退室

尾法要相

紀伊宰相

水戸羽林

右の礼終次

松平刑部

松平勘定

右の一日 沖射之終 沖射書院

諸大名

右の礼め例年 其後上座 以全儀序子 以之

古物類 沖吉聖

未吉平花
長崎書代
唐物類
松多

右日帝所錄之古物品之挿入並有白心札松平
相傳之古物類之古物品之重宝白心之古物 沖吉聖
相傳編載

古物類

古物類

古物類

古物類

右有人今日初之白心札之古物品之古物類之古物類
古物類之古物類之古物類之古物類之古物類

古物類
古物類
古物類

古物類
古物類
古物類

右之物類之古物類之古物類之古物類之古物類
古物類之古物類之古物類之古物類之古物類

山陰新院

古ノ活ノイハ事奉リノ事録ノ方也申道

上徳ノ属新院考今事自家焼失方御地

岩城ニ上御地ノ方 上意ノ込御地ノ方

古ノ一ノ御地ノ別ノ人等製ノ事ノ方

何事云

何事云

若クハ新院今 上院云

一 下御地由出ヤ御事日名次事指ノ方

幽也約也ノ事等事ノ方 推定日名ノ事等事

上意ノ込御地ノ方 御事ノ方

一 麻布命 口書事 御事

四日

一 上列御地城ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

一 御地ノ方 御事ノ方 御地ノ方 御事ノ方

六日

右の帳目通しありてなる事も傳へ

城 三つ

大井新造

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

一 右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

一 右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

七日

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の帳目通しありてなる事も傳へ

右の暇浦の袖傷よりく山妻を馬先と遊く

瑞穂信波

右の暇浦の河津書下り跡より古言及是夜中
よりく怪 是夜中 是夜中 是夜中

八日

一日 山妻を馬先

山妻

紀伊守
水戸中

右一日 山妻を馬先と遊く
山妻を馬先と遊く

井伊守

右 山妻を馬先と遊く
山妻を馬先と遊く

松平大和守

右 山妻を馬先と遊く
山妻を馬先と遊く

松平大和守

右 山妻を馬先と遊く
山妻を馬先と遊く

松平大和守

松平大和守

右に親持村と好智之方石く山崎村今迄石
らり

一 山崎の方ヨリ

井上親持
三傳之方ヨリ

右に 正家長行の山崎 以合之方石く山崎
長行の山崎親持の山崎

中村之方ヨリ

右に 文正の山崎 上段

一 山崎の山崎親持の山崎

井上親持

右に 山崎の山崎親持の山崎 如神の山崎負十八
右に 山崎の山崎親持の山崎 一騎一山崎 山崎の山崎
山崎の山崎親持の山崎 山崎の山崎親持の山崎
山崎の山崎親持の山崎 山崎の山崎親持の山崎
山崎の山崎親持の山崎 山崎の山崎親持の山崎
山崎の山崎親持の山崎 山崎の山崎親持の山崎

九日

一 山崎の山崎 如神

山崎の山崎

右に 山崎の山崎親持の山崎 山崎の山崎親持の山崎
山崎の山崎親持の山崎 山崎の山崎親持の山崎

右の帳目見ても存簿の首の帳目宛に
差支帳の号帳中より一
言今更に細云

松平信隆の
松平如由の

右の沖圓之足所の寄付古札も古札も心
心札也

井伊直重尉

右の心札より心札持込中より三
心勝の旨

中務少輔

右の信より心札の札今更に相付初札
心札の旨より打續て相付初札の旨より

高松の旨

字の旨

右の心札より信の旨也 沖圓之足所の信
より信の旨より信の旨より信の旨より

信の旨

右の信より信の旨より信の旨より

一 心札の旨

十日

十一 与右相石种物为冲特之候 右冲之方兼日
臨之 候亦凡 而左は是行や

十一日

尾津守打

右は左の儀候也 是雁之候

一 冲特之物 右冲目是之而 冲特之物候
口物負之雁特 新之内土の考之 冲特候
右は左 而内所の中候 入冲特候 是之
百方列 是冲也

十二日

口物負之雁特 候
如多考之 候
紀伊守打候
水戸中候

右は左の儀候也 是雁之候
一 冲特之物候 候
如冲の儀候 候 雁之候

十二日

一 与右相石种物为冲特之候 右冲之方兼日

十四日

右平守打
是雁之方
是雁之方
是雁之方
是雁之方

一 丹羽方系九

一 清原方壽

一 毛利希之

一 松浦昭吉

一 池田

右之方内院人代方系九右方内院人因茲
恒之方系九在右方内院人代方系九積人之日
内院人代方系九内院人代方系九内院人代方系九
内院人代方系九内院人代方系九内院人代方系九

一 今方内院人代方系九

一 今方内院人代方系九

一 今方内院人代方系九

十五日

一 内院人代方系九

右 内院人代方系九

親收少将

尾法要相
水方要門

右 御貞之丞 御白書院

右 御

加賀守少将

侍大左

右 四礼 如例月次

出陣御書持信

右 四礼 三平 是 是 却

牛林坊

双 藏院

右 御貞之丞

入御之旨 又御是之院

御書

瑞海 思修寺

瑞海 礼新

松平 伊勢守

右 御貞之丞 御白書院 右 御貞之丞 御白書院

一 今度 御貞之丞 御白書院

松平 大左

少 御貞之丞

松平 大左

少 御貞之丞

御貞之丞

松平 大左

黄公至秋午夜
少後十
吉乃月保

申多能少之与

太田備中守

右新野之修月保之礼黄公至十与吉乃月保
劫之

以除初野也

右保之与之礼以黄公之劫之

白新修也

右田之之補法也之礼吉乃月保
劫之

太田備中守

吉乃月保

太田備中守

之川西尾

西尾 吉乃月保

吉乃月保

太田備中守

吉乃月保

太田備中守

吉乃月保

右保之与之修月保之礼

黄公至秋午夜少後十吉乃月保

上吉乃月保之劫之

一 多助の南に兼山加増の南
若くは他を物受し却て得物取の由也
一切向の事なり在るに 御成

十六日

一 柳屋伝るも下御成に 御成
一 東大物とて、厚中御成之由云原は、今福
治事と云ふ事なり 御成に候事申す中根
去り候事候事
一 西大物とて、橋邊と云ふ事大野傳り、中根
御成の事なり、行方と云ふ事御成の事なり

十七日
十八日

右 御成の事なり、百を川魚川に均習事なり
右 加恩御成の事なり

右 御成の事なり、百を川魚川に均習事なり
右 御成の事なり、百を川魚川に均習事なり

右 御成の事なり、百を川魚川に均習事なり
右 御成の事なり、百を川魚川に均習事なり

物種は...

右、石門の...

...

...

一 梅田市 沖成

十九日

一 重之市 沖成

廿日

一 志州 魚川

石門は...

...

右、...

一 門前 沖成

廿一日

一 沖成

廿二日

一 沖成...

...

...

...

...

新院使は水部卿之

九條院

口移人

入子井九右馬

口移人

堀 勇之丞

口移人

園口 健之丞

口移人

伊東 玄之丞

口移人

法皇 玄之丞

廿九日

一 堀田 忠直 長 堀田 信直 等

御用見

上野 阿部 貞時

松平 清直

口移人

上杉 康之丞

口移人

佐竹 清之丞

下入之者物之...

廿一日

一 堀田 忠直 等

日年四月

一 己后刻 山皇之院 古河

右 河村初次

尾張 西表
水戸 芳門

松平 越后守
松平 忠房守

松平 何所守

河村 元忠守

右 恒重 堀内 恒重 系 河村 元忠

右 左 恒重 堀内 恒重 系 河村 元忠

右而之傷多初四人之二百之礼之物方自福之
目福之應 上覽

右痛如之冲自之

服取法為之是
其去之部
細白者為子

松年所集之方
伊達之部

右初之 冲自之 棒之 次

服取法為之

右之 右之 下 鐵 在 番 之 行 牙 以 心 之 之 之

松年所集之方
其去之部
仿昔所集之方

仿昔所集之方
梅津之部

伊達を以て
河田内記

河田内記
松村常力

右の如く
一 河田内記

二日
一 河田内記

三日

一 西門跡

右の如く
一 河田内記

四日

一 河田内記

河田内記

一 西門跡

右の如く
一 河田内記

河田内記
河田内記

右の如く
一 河田内記

又心之儀 於神多動之儀に心礼

上程録に由る

古之物受之類に 神國之御井河の古抄書之

次

丹前古抄

儀の古抄

儀の古抄

抄の古抄

抄の古抄

古抄

儀の古抄

古抄

古抄有るに心礼の書る事あり 於是抄之

抄の古抄

古抄の古抄に類し是古抄の儀に下馬儀儀

古抄の古抄に類し

抄の古抄

古抄の古抄に類し 綿百地を古抄に類し

心礼之古抄

日抄

古抄の古抄に類し 古抄の古抄に類し

抄

古抄の古抄

古 沖田之長岡

甲斐守長岡

六日

一 午刻 望之屋

沖田 吉中 并 阿部 宗重

格浦 田 龍元 若 龍 伊 兵衛 石川 吉 廣 守 正 吉

伊 勢 遷 之 入 門 口 田 田 法 之

一 甲 中 船 均 為 伊 地 上 為 伊 兵 衛 石 川 氏 長 岡 伊 勢 守

若 龍 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之

一 伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之

伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之

但 田 守 正 吉 藏 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之

六日

一 五之市 沖田

七日

一 五之市 沖田

若 龍 守 正 吉 之

一 九條 敏 吾 守 正 吉 之

八日

一 柳 生 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之 伊 勢 守 正 吉 之

十反らりし、西別 遷御

堀川宰相

右能多府の、上使高田長之丞と云々

九日
十日

昌門内膳

右日人より海、高申、並結名、古良長也也

今門刑部高申、日人、う政の奉りて分

上差、凶毒申上候

松平右近将

右去七月の上御遠、八月の事、松平右近将

昌門松平右近将、之上別達

この年、私をいふ、何れ、松平右近将

古作、加高内親帥、加高、加高、加高

振高、井伊掃部、井伊、井伊、井伊

松平、松平、松平、松平、松平

一、松平、松平、松平、松平、松平

一、松平、松平、松平、松平、松平

一、松平、松平、松平、松平、松平

一、松平、松平、松平、松平、松平

右の月分は去る日... 能勢攻に...

十一日

一 己酉卯の白書院 水沖 沖上原 沖下堂

勅使 菊亭より大細云

沖下堂 沖下堂の菊亭より大細云

沖上原 沖上原の菊亭より大細云

他府の...

一 長中院の白書を大細云 沖下堂の菊亭より大細云

沖下堂の菊亭より大細云

一 林重表 仙洞 新院沖下 中院沖下

若君御より大細云 大細云

右日

右の家元 門村御所より大細云

永井源吉

右の家元 門村御所より大細云

一 江列比年社心八幡云頃沖出中純々りく
彼社人願申口 正身志申并奉社奉行
列聖方々海々

保科肥後守
松平式部卿

右の暇々りく在後口う表紙 上書々旨
淺はち候二言々書之は書傳々足り書
只收子進々々々々々々
一 西九口 沖成板合々月流書張々信々地々
の暇々々々々々

一 右終々馬由口門橋物因防書々々々々々々
二 右馬道 還沖々々

十二日
一 糸向々々々家々々口持書書々々々々

能勢治兵衛
永井清春

右々々々々々々々々々々々々々々々

安房右兵衛

右沖々々々々 正身々々々々々々々々々々
其々々々々々 右々々々々々々々々々々々

十四日

石川大隅守
右勢別在越与宮二近之其外住
等之申付之方 上之

十五日

一 伊礼等々

十六日

十七日

一 紅葉心 伊礼等

十八日

一人之度之申向之其外在兼西御新寺之御記

今之口御記之 何カ之

一 居別 右度同 御記 山寺 伊礼等 伊礼等

御記

山寺 伊礼等

右御新顔有之其御儀之立之右名其坐

御能初 伊礼等御記

加者 實之 野之 友等

祝云

一 之島之沖中入以何其腰要脚橋架之

河内等御記

一 津管巻く席人 有る 繪巻略す

中野寺門跡
切川宰相

右 梅市より 山宮巻く

尾法 亞相

水戸 芳門

尾法 宰相

紀伊 宰相

水戸 中将

右 おのり 尾法 巻く

山法 大相

右 お柳より 巻く

山法 南々

右 お少少 巻く 上より 巻く

一人 振舞 巻く 巻く

山宮 巻く 巻く 巻く 巻く 巻く 巻く

別録 記す 月日 あり

十九日

石川 大隅守

右の 巻く 巻く 巻く

廿日

一 年上刻の里之院

お沖 沖上院 沖下堂

内井 源三郎
土の良若梅子

右に 石巻沖用之 信喜夜山白書院

お沖 山寺後 沖上院 沖下堂

初使
院使

右に 石巻沖用之 信喜夜山白書院

お沖 山寺後 沖上院 沖下堂

お沖 山寺後 沖上院 沖下堂

お沖 山寺後 沖上院 沖下堂

お沖 山寺後 沖上院 沖下堂

一

内井 源三郎
土の良若梅子

右に 石巻沖用之 信喜夜山白書院

お沖 山寺後 沖上院 沖下堂

お沖 山寺後 沖上院 沖下堂

お沖 山寺後 沖上院 沖下堂

其節之而之者人々之為堂方之或古之者師
或之給未為願之

次相白帝位
其之儀者之而之給為願之

一 相柳之方物為教は考一降教候者其亦心面之
族并心冠師未九人の給らり

一 九降教は河井儀の考考之長考考 上候之
心服白地之白取綿之白取之綿之考之口之考之

一 之入、功十取之考 醫師考之口給らり
九降教は 考考考考考考考 上候之口取
白取之給らり

一 西門路の儀
其之儀考之口給らり

一 其之儀考之口給らり
上候考考考考考考考 其之給之

一 其之儀考之口給らり
其之給之

一 其之儀考之口給らり
其之給之

一 其之儀考之口給らり
其之給之

一 其之儀考之口給らり
其之給之

一 其之儀考之口給らり
其之給之

一 其之儀考之口給らり
其之給之

龍崎抄

拾之り

龍崎抄

口之り

一柳丹書

口之り

九鬼或抄

口之り

中川抄

口之り

細川中抄

幸乃目抄

一柳中抄

大なるりれ松平のちり抄

古之信抄

口之り

解毒抄

之書抄

右 沖自之足勢列のちり抄

一 増白抄

前白之書

右 早列抄

沖自之

老心抄

右 諸君の目かき抄

沖自之

狗耳抄

尚之り

古言

一 交習く法大名ハ格年係りハ能ク 仁月
居上列 古彦乃 水沖り所 禊屋子 禊乃
以之 法大名一曰 沖月之云 禊屋子云
沖美之 法大名ハ行ハる 功ハ列也

一 法大初 地并上乃

市生乃

法經

年廿

紅葉乃

法之

一 法大乃 爲之 仁月 入 仁月 法大 仁月 格年 係り

一 仁月 爲之 仁月 入 仁月 法大 仁月 格年 係り

松平修治乃 是夜 祭乃 云之 也

松平越乃

松平長乃

上松原乃

松平乃

依乃 所乃

松平乃

松平乃

京乃 乃

松平乃

松平乃

松平乃

松平乃

松平乃

松平乃

松平乃

松平乃

東内記

細川氏傳

松平氏傳

方寸書

三才圖會

一 山内氏傳

南無山傳

瑞河氏傳

日刊

松平氏傳

幸長

松平氏傳

松平氏傳

細川氏傳

三才圖會

方寸書

一 山内氏傳

南無山傳

瑞河氏傳

日刊

松平氏傳

幸長

細川氏傳

三才圖會

方寸書

右 山内氏傳

一 松平氏傳

細川氏傳

一 三才圖會

一 方寸書

一 山内氏傳

一 松平氏傳

芝 松平 松平 松平 松平
一 松平 松平 松平 松平
一 松平 松平 松平 松平
中 不 可 知 矣

高日

一 入 口 以 能 爲 也

松平 松平 松平 松平
細川 松平 松平 松平
松平 松平 松平 松平
松平 松平 松平 松平

高日 因 記

右 記

右 記 松平 松平 松平 松平

高日 因 記

右 記 松平 松平 松平 松平

高日

一 松平 松平 松平 松平

松平 松平 松平 松平
松平 松平 松平 松平
松平 松平 松平 松平

高日

Faint handwritten text in Latin script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

中門の門
幸ひとて
利の
如き
有力
大村丹
可
輪
京
新
松

Faint handwritten text in Latin script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

有力
伊
正
可
お

右の
入
右
若

建初内田氏
九鬼大和守
幸山信成
勿如信成
古方 志也
心未之志部
平野権平

右拾遺考一日：御前白方 古の帳より

高極下編号
山内流輝

今之世
織田 古方

右四考一日
御前白方 古の帳より

一 古の帳より 大小各の白書信下帳、振集大和
此の信成は早由より切支丹の宗旨今之世海
竊に傳へられ上り奉り之有るより其の信成の
徒お全そあるも早の信成を之に改而し願内之
昔即承承及此信成之初、入念は在り信成の
掃部氏信成也 如かきり信成の書信成の對する
列聖方の傳 上り奉り也

一 七の船

津系より 右岸より 右岸より 右岸より

一 船内中より 舟員之 舟員之 舟員之

折妻 折妻 折妻 折妻

一 舟員之 舟員之 舟員之

廿七日

松平肥後守

右 上段 松平 松平 松平 松平

一 舟員之 舟員之 舟員之

廿八日

一 舟員之 舟員之 舟員之

松平肥後守

右 舟員之 舟員之 舟員之

舟員之 舟員之 舟員之

松平肥後守

舟員之 舟員之 舟員之

日年六月

朔日

一 己上刻の是書院

右河

河一門方

右河射顔早

一 河白書院

右河白書院

角余あり市
日一店在り

右を物系主

河員見

其江より活右名

右河員見

入神の初四日書院東の縁色

園共右持基

物野内也

古多物系之在 沖月見

沖里之院之重る 沖月見

松平隆興

玄苑右持基

古河礼の終勢之是入今縁色之

此向由也

片相中

一 四時之日

松平初基

古河礼越前守終勢之是入今縁

若手若手之附縁

松平山崎

古河信古河府の縁色

松平右基

古河初之古河力之代の終勢

古河初基

古河初基

古河初古河上之 沖月見

真田長春
細井金吾

右 沖田之足早普豊夜の橋岡と云ふ事

川崎具房
芳綱又五郎

右 岡列の宿所并 沖田之

斎藤と云ふ
西尾若之助

右 龜河の宿所并 沖田之

石川河内守
甲斐守長春

右 田中が海軍奉行 沖田之

一 今より法衣名に礼不他法に有る 沖田之石見守
兼山圓舟中、白波油に有るは他法不他法に

三 何れ也

二日

一 田中守の宿、午の交後、田中守の宿に多物を置く

三日

四日

一 大所より人より押交るの事、田中守の宿に

今より改む 何れ也

一 守方武守

松平市正

去番

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

一

去石

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

二

去石

去石

去石 去石

三

去石

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

六日

去石

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

右山礼次

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

右山礼次

去石

去石 去石

右山礼次

去石

去石 去石

去石

去石

去石 去石

右の礼終る

相合月防

右の礼終る 沖白書院に

如御

御上殿 沖白書院

山内

右の礼終る

法大各

右の礼終る 次

山王別當

右の書院

日神

日吉古書

右の礼終る 沖白書院に 右の礼終る 沖白書院に 右の礼終る 沖白書院に

右の書院

右の礼終る 右の礼

一 右の礼終る 右の礼

一 右の礼終る 入御 右の礼終る

右の書院

右の礼

一 右の礼終る 右の礼

一 右の礼終る 右の礼

一 右の礼終る 右の礼

一 右の礼終る 右の礼

日 龍人

右足牙初言の礼の相子古の目保神の次

抄年考紀

右の初中々々客言の勝の言分

秋之身之正

右の礼の相子古の目保神の是人今度信能恩得
之次

安者古の言を

能智の言

永井の言

伊勢の言

右後身列の言古信の言 御月之

御月之

於中古の言

丹羽古の言

松原古の言

荒尾古の言

上御館林

右信の言 御月之次

古の言

右甲列の言古の言 御月之の言古の言

西古の言

丹羽古の言

右の者より大抵の事は
心算の御事よりしるし
御事よりしるし

十一日

一 場田の御事よりしるし
御事

十一日
一 申利

右の御事

右の御事よりしるし
御事

右の御事

右の御事よりしるし
御事

十四日

一 右の御事よりしるし
御事

右の御事

右の御事

右の御事よりしるし
御事

十六日

一 右の御事よりしるし
御事

右の御事

右の御事よりしるし
御事

右の御事

右の御事

古の百八十八歳心よりいふに何れ其の言を採
之旨名也

お光寺

古の百八十八歳心よりいふに何れ其の言を採
之旨名也

大業院
中将

古の百八十八歳心よりいふに何れ其の言を採
之旨名也

山口忠之丞

古の百八十八歳心よりいふに何れ其の言を採
之旨名也

一 相見光東歳古の百八十八歳心よりいふに何れ其の言を採
之旨名也

十八日
一 年刻の百八十八歳心よりいふに何れ其の言を採
之旨名也

修造方多危

古の百八十八歳心よりいふに何れ其の言を採
之旨名也

山崎原七郎
久留河希彦

古の百八十八歳心よりいふに何れ其の言を採
之旨名也

一 山陽の事

水野の事
其の事

右之物は是れは、沖田之是二条の事なり
傷物事之次

方与紹之良
之

右百、河原、山陽の事
沖田之次

右百、河原、山陽の事
初瀬也信重
右河原之信
方与紹之良

右之河原越河原の事

河原の事
山陽の事

右之河原越河原の事
沖田之次

一 山陽の事

山陽の事
山陽の事

右之河原越河原の事
沖田之次

一 山陽の事

山陽の事
山陽の事

古
右行本西の神子候へ申降年申す候へ
と申す候へ

古
口

相子候はる

古
上候は申降候へ

百
候へ

一
是を候へ候はる候へ
古之候丹候も

丹候も
石川候も

右
申降候へ

丹候も

心候も
心候も

心候も
心候も

古
候も

右
通らり候へ

心候も

一
今より二候も申降候へ
心候も

廿日

松平越前守

右此の御帳は其の由也 城御印有之者
御印之原は其の由也 其の由也 御印
一 御印之原は其の由也 御印

越前守御印
其の由也

右 御印之由

御印之由

右 右此の御帳は其の由也 御印有之者

松平越前守御印

御印之由

御印之由

右此の御帳は其の由也 御印有之者
御印之原は其の由也 御印
右 右此の御帳は其の由也 御印有之者

松平越前守

右此の御帳は其の由也 御印有之者
御印之原は其の由也 御印

右此の御帳は其の由也 御印有之者
御印之原は其の由也 御印

田上刻 還河

古下

古下

一 山道之尾 和河

青山 因幡
福臣若松也

右直人 百部 大の香取 竹のく 茂色

因幡より

若松也

大の香取 百部 大の香取 竹のく 茂色
松平の徳助也

徳助 三平

右 百部 山道之尾 和河 竹のく 茂色 徳助 三平
百人 山道之尾 和河 竹のく 茂色 徳助 三平
合者 山道之尾 和河 竹のく 茂色 徳助 三平

松平 徳助也

松平 徳助也

松平 徳助也

松平 徳助也

右 山道之尾 和河 竹のく 茂色 徳助 三平
徳助 三平 山道之尾 和河 竹のく 茂色 徳助 三平

井伊 徳助也

右 山道之尾 和河 竹のく 茂色 徳助 三平
山道之尾 和河 竹のく 茂色 徳助 三平

おまれのき 殿

秀山同席也

右書八月朔の古傳り為 初めあ事々迄才也
うぬに 思ふの程先月昨年上書有る下月新方
行こ うれ上り方 上書了匠大書有る下月
乞申傳へん

古書

- 一 坊上子守の 御名代 杉平侍言
- 一 今知れたる 二二子の世にありての古書 年
のしりある面 活版の古書 又瑞の月力匠云

古書

右書高し 文章ありてありて 心付書有るありてありて
あられ也 殿

原田有重

右書高し 文章ありてありて 心付書有るありてありて

心付書有るありて 伊豆集りて

上杉屋吉次郎

毛打甲也多也

杉平吉重也

佐治所長也

右部中へ而して志中列聖に朽木色に少く行はる
次

青木因篤
福徳若松

右部中へ而して志中列聖に

廿七日

永井信俊

右部中へ而して志中列聖に

水戸五郎門

右部中へ而して志中列聖に
上段中へ而して志中列聖に
あふれ中へ而して志中列聖に

廿七日

一午刻に志中列聖に

水戸五郎門

水戸五郎門

中井信俊

水戸五郎門

水戸五郎門

水戸五郎門

水戸五郎門

水戸五郎門

水戸五郎門

水戸五郎門

右田内方

右田内方 右田内方 仙方

丹波守

川内日記

右田内方日記 川内日記

丹波守

川内日記

丹波守

川内日記

丹波守

川内日記

丹波守 川内日記

右田内方日記 川内日記

川内日記

右田内方日記 川内日記

右八

一 右田内方日記 川内日記

右田内方

右九

一 右田内方日記 川内日記

後竹抄抄巻五の末抄

永井伝

栢全月抄

柳七郎

右の依、後右軍終三又の終、心腹物、心能
ある、心腹物の抄列、

三の御前、御統、ワリカウ、

源氏抄

心腹物、貞宗、

源氏抄

心腹物、貞宗、

又

心腹物、貞宗、

抄

源氏抄

心腹物、貞宗、

心腹物、元宗、

口

源氏抄

申り

送抄

日辛六月

朔日

一 己卯 山寺尾

水沖

尾 港 無 相
水 戶 黃 門

右 沖 冠 額

松 平 屋 敷 寺

右 沖 貝 足

一 沖 白 年 之 尾

水 沖

左 白 年 之 尾

右め例月ハ礼終ニ
入所ノヨリ

古井古物氏

右ノ所ニ在ル

杉本松

御方ノ家目録
子代ニ在リ

今ノ所

口ノ所ニ在リ

古ノ目録
子代ニ在リ

右ノ所ニ在リ

古ノ所ニ在リ

右ノ所ニ在リ

右ノ所ニ在リ

古ノ所ニ在リ

古ノ所ニ在リ

古ノ所ニ在リ

古ノ所ニ在リ

古ノ所ニ在リ

古ノ所ニ在リ

古ノ所ニ在リ

右ノ所ニ在リ

平泊家初至日一日、沖前、百、
力知少、方加、
家、
入、

一 哲方之、重、

紀伊要本

古病、
沖、

紀伊要本

古、

相、
古、

延、

女、

貞、

古、

昔、

古、

古、

宗法之存及人
然其子也

古の代は中七系は母娘をくし
一 物白のあらちり中坤は 清盛

二

紀伊郡

古 上使松平信長と云ふ

一

正判のり之を尻 中印 中上殿 中下殿

松平若松

松平若松
古の代は中七系は母娘をくし
一 物白のあらちり中坤は 清盛
二
古 上使松平信長と云ふ
一 正判のり之を尻 中印 中上殿 中下殿
松平若松

古の代は中七系は母娘をくし
一 物白のあらちり中坤は 清盛

古の代は中七系は母娘をくし
一 物白のあらちり中坤は 清盛

席野頭方紙云

東山新寺
西山新寺

右山田之師人席之是也總之吾所上之乃彼
使信山相子多物之りて書面之候

四日

一午所取山白事之候

お沖

二年成光

品河田門孫

右去頂大佛口紙云此信云

山白事之候

一未了也

右去頂東庵日光与山之りて信云何信云

中其内院

新性坊

常照院

右山田之師人席之是也總之吾所上之乃彼

高教院

双岩院

右山田之師人

御月見次

大出院中子

右 沖目見之長... 中將
入河之刻



日根野

右... 沖目見之長... 沖目見之長... 沖目見之長...

備口... 備口... 備口...

右... 沖目見之長...

皆川... 皆川... 皆川...

右... 沖目見之長...

備口... 備口... 備口...

右... 沖目見之長...

右... 沖目見之長...

右... 沖目見之長...



古... 古... 古...

右... 沖目見之長...

山... 山... 山...

備口... 備口... 備口...

右方目録前上巻初名

沖田之次

山崎守經八重山

徳川幕二重山子

伊藤之次

川村吾郎

小島之次

津本重定

二乃左之次

嶋田玄九郎

徳川之次

白鳥傳之次

沼田之次

松平重定

松平和記

小田原千三郎

与右之次

三浦新左衛門

小島之次

山田信孝

山崎之次

菅原重定

三浦之次

三浦新左衛門

少りしを

石川九千

長

移文

大いなる行代

角

口

大いなる行代

大いなる

口

大いなる

大いなる行代

一

大いなる行代

大いなる行代

六日

勝

物

大いなる

六日

大いなる

大いなる行代

松平忠直の遺言

元田内蔵助

右今更の暇より今程候に在りし
亦事候に及りし礼儀等存し
事ありし上より此の御書は
昔より末を候へば一席中人
候に及りし礼儀等存し

尾花重光
紀伊守
水戸守

右 上候より此の御書は
得申すに及りし礼儀等存し

得申すに及りし礼儀等存し
昔より末を候へば一席中人
候に及りし礼儀等存し

右 上候より此の御書は
得申すに及りし礼儀等存し
昔より末を候へば一席中人
候に及りし礼儀等存し

松平忠直

右 上候より此の御書は

井伊守

右 上候より此の御書は

十一日

右列子の手紙 上候

杉平右衛門

信紙も無

柳原一節

右父様の手紙

一 柳井源次郎の手紙

一 今日琉球の王侯の御覧

書

若くは他の生かすの御覧

十二日

右琉球人の御覧

上候

杉平右衛門

本村右衛門

大月介

所奉行

右の御覧

十三日

一 堀田の如くより至浦に 渡津

十五日

一 渡津をへ

十六日

一 午止割古原向 北津 津上原 津安生

山崎の如くより往方へ

柳原古原
此津の如く
津上原
柳原古原
信田原古原

津上原古原
少原古原
少原古原
少原古原
津上原古原
津上原古原
津上原古原

打年古原
津上原古原
津上原古原

右拾遺人山崎北紀入

右拾遺少卿院高以爲之
 何有之
 祿厚
 松江市
 年邑松原
 柳原方
 少
 中
 悔
 天
 右拾遺少卿院高以爲之
 何有之
 祿厚
 松江市
 年邑松原
 柳原方
 少
 中
 悔
 天

右小吏經入
 退
 上

- 老日
- 一 二九
- 十八日
- 十九日

一 午刻
 松平

抄子之目録
古力目録

古力之目録

抄子之目録
古力目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録

古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録

古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録
古力之目録

杉子如所遺

古、難、材、を、傷、め、る、事、は、礼、の、節、子、方、目、録、を、之、
但、之、物、者、目、録、を、約、上、段、を、之、相、白、書、院
可、以、礼、下、向、

其、日、
其、日、
其、日、

一、明日、瑞、球、西、へ、傳、考、候、に、申、上、之、物、入、受、
古、廣、方、に、積、之、

其、日、
一、今、之、日、瑞、球、人、に、礼、也、可、

其、日、
一、百、天、に、瑞、球、人、に、礼、也、可、

其、日、
一、所、に、候、候、に、奉、上、之、勤、也、
お、治、候、に、奉、上、之、勤、也、
是、為、礼、

其、日、
一、紅、筆、に、御、掛、敷、に、御、奉、上、
一、心、是、為、礼、也、可、

坊、上、寺、

右、御、新、顔、兼、古、申、上、之、

三、月、

相馬寺

法外 宝善院

京師 念恩院

口戸 号心寺

古四ヶ寺

古六口

一 徒流球國中 山王 字尚貴 殿使也

一 若手振の誕生 以後 平治 西の 徳月之 ありれ 於 徳武王 御貞 去 願 相平 彦彦 子也 於 所 へ

一 耳 耳 力 今 今 口 口 初 初 流 流

一 右 右 有 有 使 使 也 也 城 城 之 之 所 所 相 相 平 平 彦 彦 子 子 也 也 於 於 所 所 へ へ

一 上 上 所 所 之 之 也 也 誠 誠 治 治 宅 宅 之 之 大 大 名 名 少 少 路 路 也 也 通 通 也 也 於 於 所 所 へ へ

一 大 大 道 道 也 也 於 於 所 所 へ へ 於 於 所 所 へ へ 於 於 所 所 へ へ

一 歩 歩 行 行 也 也 武 武 珍 珍 人 人 是 是 之 之 彦 彦 子 子 也 也 於 於 所 所 へ へ

一 む む ち ち 巧 巧 即 即 人 人 流 流 球 球 之 之 也 也

一 樂 樂 人 人 四 四 人 人 口 口 聖 聖 樂 樂 之 之 也 也

一 士 士 十 十 人 人 是 是 之 之 彦 彦 子 子 也 也 於 於 所 所 へ へ

一 是 是 之 之 彦 彦 子 子 也 也 於 於 所 所 へ へ

西行より考案物橋を屋橋の下流行二通
列句使川安河当所之板縁階之上よりと考
案序集之

河部柳生録にも井上麻房より高橋越中守
如月く全案四ノ案を麻房考案上より下流
至之山平定ノ考河所より方山並至ノ山道也
若望下官ノ族考玄室ノ前序上之也

一年別古序考

如月 山平

山平

若良若良

河上原 山平重河ノ考 高良若良ノ考

但山平原ノ考是山平重河ノ考之上よりと考人重河
山平重河ノ考

一 西ノ山縁

井上柳生氏
杉平大重考
杉平原河考
古井古物氏
地回加考考
板余月考考

古井大重 上考考考考考考考

杉平原河考

一 在子多由子中席上光華之河内也
 櫻河也伊豆也其後也對之也如松平
 藤平也其人也其子由氏也其子向之
 金剛也其子也其後也其子也其子也
 越前也其子也其子也其子也其子也
 由氏也其子也其子也其子也其子也
 一 河内也其子也其子也其子也其子也
 一 由氏也其子也其子也其子也其子也
 一 藤平也其子也其子也其子也其子也
 一 櫻河也其子也其子也其子也其子也
 一 伊豆也其子也其子也其子也其子也
 一 在子也其子也其子也其子也其子也

一 由氏也其子也其子也其子也其子也
 一 藤平也其子也其子也其子也其子也
 一 櫻河也其子也其子也其子也其子也
 一 伊豆也其子也其子也其子也其子也
 一 在子也其子也其子也其子也其子也
 一 藤平也其子也其子也其子也其子也
 一 櫻河也其子也其子也其子也其子也
 一 伊豆也其子也其子也其子也其子也
 一 在子也其子也其子也其子也其子也

一 如江之向之字考考大自之方以深之橋門之
 方之並重之琉球有使之屋橋或下大之
 橋結造也番及之際之重之
 一 直使大自之字考考大自之方以深之橋門之
 向之世也

一 中丸山門番

加 本 上野河原

一 堀重門中丸山門番

加 本 水野石之

但大卷乃日不之使堀重門之方也之

一 二丸山門番

加 本 榎原元清

一 大自山門番

加 本 湯島西之助

一 大自山門

加 本 久世之重

是乎松平越中守家才為隨乃當為琉球
 人如結之向也之重節者也琉球人世也

一 直使大自越中守家才為隨乃當為琉球
 人如結之向也之重節者也琉球人世也

一 下之字松平修福乃前之重節者也琉球
 人如結之向也之重節者也琉球人世也

下之字松平修福乃前之重節者也琉球
 人如結之向也之重節者也琉球人世也

廿六日

松平屋敷

右土使河村新右衛門忠尚
おの礼也 松平野宿
一 瑞練人日光社
右京を去る事此地古
旨 上書き 物産

廿七日

廿八日

右土使河村新右衛門忠尚
おの礼也 松平野宿

一年の切由是也

松平屋敷

松平屋敷
松平越中
水野半人
松平山城
内務省

右土使河村新右衛門忠尚

右土使河村新右衛門忠尚

右土使河村新右衛門忠尚

右土使河村新右衛門忠尚

此帳子亦在右日前右山白書院有帳子

松平丹波守

松平因幡守

松平長門守

水谷信都守

松平市正

沼田重定

榎村如月守

中多信隆守

堀 英四郎

吉田重人守

右帳子一日... 右山白書院

松平河内守

河井栲次郎

水野信房守

石川淳正

昌高内膳

中多信隆守

山本元膳

牧野内膳

一柳左衛門

右の面を一日と 右の面を一日の帳の面を指す
伯父の簿に重ると 右の

水野監物

右の帳

一 重なる簿の面を指す 右の帳 沖前

右の帳の面を指す

右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す

一 簿の面を指す

水野監物

一 右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す

水野監物

右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す
右の帳の面を指す 右の帳の面を指す

水野監物

古九日

十六

中多正徳也
為如左所也
右之面と西九口番と
對する傳之

一 琉球人日光社系より

今川刑部

右所地は
傷人する傳之
沖津市

一 同時樂人日光社系より傳之
沖津市

山田吉良子

古高子
海野吉良子

桂芳子
吉原次郎八

吉良子
山田吉良子

島川吉良子
一名吉原

又吉良子
樋口又吉

月吉良子
曲剛吉良子

右七人十日番

西尾山良子
榎井吉良子

